

丹波県民局 地域創生戦略（2023～2024）

I 策定の趣旨、目指す姿

丹波地域では、「丹波の森宣言」以降、30年以上にわたって、住民、事業者、行政が一体となって、「丹波の森づくり」と呼ばれる自然と人と文化の調和した地域づくりを進めてきた。地域の持続可能性を追求する森づくりの理念は、今日のSDGs（持続可能な開発目標）の考え方と軌を一にするものである。

2020（令和2）年3月、丹波の森宣言の内容に沿って、地域創生戦略（第2期）が策定された。そして、同戦略にもとづき、2020～2022（令和2～4）年度の3カ年にわたって、地域資源の保全・活用や地域活性化に資する様々な取組が進められてきた。

一方、この間、新型コロナウイルスの感染拡大により、地方回帰の傾向が顕著になりはじめている。また、テレワーク、二地域居住など人々の働き方、暮らし方にも大きな変化が生じている。それに伴い、丹波地域への移住者数[※]は増加し、人口減少・高齢化が進む地域社会も変わりつつある。

こうした社会環境の変化を踏まえつつ、2022（令和4）年3月、2050年を展望して地域の将来像を描き、2030年代初頭までの長期的な方向性を示す「丹波2050地域ビジョン」が策定された。

同ビジョンでは、丹波の森づくりの理念を発展的に継承しつつ、ポストコロナの新しいライフスタイルを見据え、新しい地域社会像を提起している。基本理念においては、「丹波スタイル」、すなわち「人と技術の力を活かした、自然の中での多彩な暮らしのカタチ」の創造・発信を掲げ、持続可能な自立分散型居住モデルの構築を謳っている。

今回改定する地域創生戦略は、この「丹波2050地域ビジョン」のアクションプランに位置づけられるものである。改定戦略では、ビジョンの方向性に沿って、向こう2カ年度にわたって県民局として重点的に推進する取組を示している。

2025（令和7）年には日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催される。その際、ポストコロナ社会のショーケースとして丹波地域を発信できるよう、本戦略のもと、今後2年間SDGsの達成や超スマート社会への対応、地域発イノベーションの創出などに取り組み、持続可能な地域づくりに邁進していく。

※移住者数：「丹波篠山暮らし案内所」、「丹波市移住相談窓口」を通じて移住した人数

【目標】

No	項目	起点 (直近データ)	目標値 (2024 (R6) 年度末)
1	滞在人口 (15歳以上～80歳未満)	2,960万人 (2021(R3))	3,026万人
2	Co2排出量	1,374千トン (2019 (R1))	1,267千トン
3	観光入込数	407万人 (2021 (R3) 速報)	517万人
4	移住者数	369人 (2021 (R3))	445人
5	事業所(者)数	4,908事業所 (2021 (R3) 速報)	5,000事業所
6	農林水産業産出額	16,792百万円 (2020 (R2))	17,000百万円
7	これからも住み続けたい と思う人の割合	74.2% (R4)	過去5年間の最高 値 (R3:76.5%) 以 上
8	住んでいる地域に愛着や 誇りを感じる人の割合	64.1% (R4)	過去5年間の最高 値 (R1:69.2%) 以 上
9	ICT (情報通信技術) など により、どこにいても便利 に暮らせる社会になって きていると思う人の割合	39.4% (R4)	過去5年間の最高 値 (R2:43.0%) 以 上

※目標設定の考え方は別表のとおり

II 取組の方向性

「丹波 2050 地域ビジョン」の基本理念を踏まえつつ、空間像、社会経済像、人間像の観点から目指すべき将来像の実現に向けて取り組む。

- 1 空間像－生活空間の再編・創造－
 - 1－1 森の保全と活用－守り・活かす－
 - 1－2 集落、まちの創生－居心地のよい「場」の創出－

- 2 社会経済像－新しい経済・雇用のしくみ創出－
 - 2－1 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり
 - 2－2 柔軟な働き方が可能な社会の実現

- 3 人間像－新たな人材、つながり、コミュニティの出現－
 - 3－1 創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上
 - 3－2 人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

「丹波 2050 地域ビジョン」において「シンボル・プロジェクト」（★印：今後5年間で重点的に推進する事業）に位置づけた事業を中心に、2023・2024年度の2カ年の取組目標・内容を示す。

1－1 森の保全と活用－守り・活かす－

① 里山づくりの推進（★アクティブフォレスト・プロジェクト）

- ・里山づくりの多様な担い手（もりびと）育成にあたりとともに、里山づくり活動団体を支援し、その取組を広く発信し、里山づくりの活動の輪を地域全体に広げていく。
- ・持続的な里山資源活用の仕組みづくりと、万博来場者を見込んだ里山を舞台としたコト体験プログラム（ひょうごフィールドパビリオン）の充実を図る。
- ・丹波の里山づくり促進事業実行委員会において、「丹波の森国際会議」（仮称）の里山分野にかかる準備作業に着手する。
- ・丹波産材を安定供給するため、高性能林業機械導入等を支援する。
 - R5：里山づくりのポータルサイトによる情報発信
関係人口等を対象とした里山交流企画の実証・検証
 - R5・R6：里山体験プログラム充実、ガイド育成

② 桜つつみ回廊の美観保全

- ・桜つつみ回廊は、たんば三街道の景観要素として重要である。整備されて時間が経過し、てんぐす病等に罹患した木や枯木などがあることから、桜の寿命を踏まえ長寿命化を図る。
 - R5：川代恐竜街道（篠山川沿い）での樹勢回復対策の実施（完了）

③ 生物多様性の保全と地球温暖化防止

- ・丹波地域の貴重な生態系と豊かな生物多様性の保全を推進するとともに、バイオマスエネルギーの活用を推進し、二酸化炭素の排出を抑制する。
 - R5：生物多様性とバイオマスエネルギー活用に関するセミナーの開催、サステイナブルツアーの催行

1－2 集落、まちの創生－居心地のよい「場」の創出－

① 地域再生の推進（★持続可能なコミュニティ・プロジェクト）

- ・担い手の高齢化・後継者不足が顕著な地区・集落において、移住者や若者が地域活動に参画し、地域活動のノウハウなどを承継する取組を支援する。

- ・集落、農地、里山、空き家管理や集落運営の仕組み刷新の取組を支援する。
→R5/R6：SDGs モデル・コミュニティの選定、事業実施

② ★まちの拠点創造プロジェクト

- ・多拠点居住やテレワーク等、新たな暮らし方、働き方に対応した複合的な都市機能のあり方を提案する。
- ・J R 柏原駅北市街地と丹波の森公苑、駅南にある県有地からなる柏原交流ゾーンの都市機能のあり方を踏まえて、駅南用地の具体的な利活用を検討することにより、拠点としての新たな可能性を提案する。
→R5：基本計画の策定、駅北市街地内における高校生の居場所づくり

③ 学生等による地域貢献活動の推進

- ・学生の活力や知恵、経験等を活かした丹波地域の活性化を推進するため、大学生等で構成する団体が、自治会などの地域団体と連携して自主的に実施する活動に支援する。
→R5/R6：団体の活動支援

④ 持続可能な農業・農村の実現

- ・農村集落でのブランド農産物等の生産維持・拡大に向け、農地の保全、高度利用、レベルアップ整備を推進するとともに、獣害防止、作業軽労化等に資する取組を実施する。
- ・ため池の管理・保全意識の高揚を図るとともに、景観面等のその魅力を広く内外に発信する。
→R5：獣害・除草対策としての新技術導入実験、R6：普及啓発等
R5/R6：ため池看板作成

2-1 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

① スマート農林業の推進（★たんばスマート農林業特区プロジェクト）

- ・「丹波型スマート農業」の確立に向け、農業用ドローン、営農支援アプリ等の利用拡大を図る。
→R5/R6：スマート施肥システムの技術実証、果樹におけるスマート農業技術の実証、スマート農業シェアリングシステムの普及・拡大
R6：農業用ドローン利用を丹波地域全体へ普及・拡大

② ブランド農産物の魅力向上と6次産業化の推進（★たんばフードバレー・プロジェクト）

- ・企画・開発、生産、加工・流通販売、飲食、観光部門等の事業者間の連携促進などにより、ブランド農産物の高付加価値化や新商品の開発・販路拡大に取り組む
→R5/R6：6次産業化による商品のブランディング、統一プロモーションの展開

③ ★食文化ツーリズム・プロジェクト

- ・丹波の産物や食文化、暮らしの魅力、つくる人の思いを五感で体感できる旅「丹波の食文化ツアー」を大学と連携して造成する。

→R5/R6：旅行商品の造成・販売

④ 四季の丹波「コト体験」プログラムの充実

- ・丹波特有の地域資源を活かしたユニークなコト体験プログラムの開発・充実に支援し、マイクロツーリズムを推進する。

→R5：兵庫 DC 時におけるコト体験ツアーの実施

R5/R6：フィールドパビリオンにおけるコト体験プログラムの開発

⑤ ★たんば恐竜（DMO）構想推進プロジェクト

- ・認知度向上と潜在的顧客層の拡大に向け、恐竜サポーターの拡大を図る。
- ・篠山層群エリアでの自然体験等コト体験のメニュー充実やガイド等人材育成に取り組み、フィールドパビリオンとしての内容充実をめざす。
- ・民間企業（企業部会）との連携のもと、フィールドミュージアム拠点施設への誘客や関連商品の開発に取り組む。

→R5：サステイナブルツアーの催行（再掲）、恐竜グッズの開発

R6：大阪・関西万博に向けたガイド育成、広域プロモーションの展開

⑥ ★シリ丹バレー構想プロジェクト

- ・内外の産学官民のネットワーク形成を進め、地域発イノベーションの創出・創発を促進するエコシステムの構築を図る。
- ・丹波地域内の各地区で地域課題の解決や地域資源の活用にあつた事業創造の仕組み（丹波型事業共創コミュニティ（パートナーシップ））の構築・運用にあたる。
- ・起業や新事業創出にあつた資金支援メニューの整備を地域金融機関と連携して進める。
- ・食、農、森をキーワードに関連産業のDX化を推進する。
- ・コワーキング・スペースの地域事業創造のハブとしての発展を促す。
- ・木材関連産業創造ネットワークの形成を図り、新事業創出を目指す。

→R5：丹波型事業共創コミュニティ（パートナーシップ）の設立・運用開始、資金支援制度の整備・運用開始

R6：万博時のビジネス交流に向けたパイロット事業（海外企業とのビジネスマッチング）の実施

2-2 柔軟な働き方が可能な社会の実現

① 女性の起業促進と若者の起業家精神醸成（★シリ丹バレー構想プロジェクト）

- ・たんば女性起業家ネットワークの活動を通じ、起業志望者への伴走型支援を行うとともに、起業家間の交流、事業連携を促進する。
- ・若者を対象にふるさと起業や企業経営について学ぶセミナーを開催

→R5/R6：国内外の女性起業家・経営者とのピッチイベント、交流会の開

催、ユース起業アカデミーの開催

② 副業人材の登用促進（★シリ丹バレー構想プロジェクト）

- ・管内企業が求める専門人材（IT 技術者等）、創造的人材（クリエイター）の確保に向け、大都市圏在住の企業人材等に副業人材としての就業を呼びかける。

→R5/R6：マッチングイベントの開催、副業人材登録システムの稼働

3-1 創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上

① もりびととしての青少年の育成（★たんばユース躍動プロジェクト）

- ・縄文の森ユース躍動プロジェクトの内容充実に努めるとともに、自然体験、環境学習、ふるさと学習等を経験した青少年に対し、地域づくりに関わる場や機会を提供する。

→R5：青少年プログラムの体系化と地域活動との連携促進

② 万博記念国際文化事業の推進

- ・2025（令和7）年の万博時に、国内外からゲストを招聘し「丹波の森の国際会議」と「丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば」を開催する。
- ・2023（令和5）年度より準備作業に入るとともに、様々な機会を通じて気運醸成を図る。

→R5：グローバル丹波推進委員会の立ち上げ、R6：プレイベントの開催

3-2 人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現

① 移住・環流の推進（★たんばスタイル（たんば暮らし）・プロジェクト）

- ・丹波の多彩な魅力を発信し、丹波暮らし（丹波スタイル）への関心を喚起することで、二地域居住者や潜在的移住者層の拡大を図る
- ・シリ丹バレーの取組と連携して、丹波での起業・継業・就業を支援する仕組みを整備し、「ジョブ型移住」を推進する。
- ・‘人が人を呼ぶ’流れが起きる中、地域貢献、地域づくりへの意欲が高く、求心力のある内外の人材の活動を後押ししていく。

→R5：丹波型事業共創コミュニティ（パートナーシップ）による移住・起業支援・地域再生促進

R6：万博を見据えた丹波スタイルのグローバル発信

② ★スマート・コミュニティ・プロジェクト

- ・暮らしやすい持続可能な地域社会の実現に向けたスマート技術導入のあり方を検討し、スマート技術のモデル地区等での社会実装を推進する。

→R5/R6：導入技術、事業のフィージビリティ検討、モデル地区での社会実装

IV 推進体制

- ・シンボル・プロジェクトの推進母体である「プロジェクトチーム」（地域組織（まち協、自治協など）や地域内外の事業者、有識者などが参画）や、「たんばユースチーム」（丹波地域に関わりのある若者が参画）などで活動する200名以上の人々で構成する「プラットフォーム TAMBA」が、「丹波 2050 地域ビジョン」の実現に向けて、そのアクションプランである本地域創生戦略のフォローアップを担う。
- ・「プラットフォーム TAMBA」では、戦略目標の進行管理を行うほか、年次目標の設定やシンボル・プロジェクト間の調整・連携、新たなプロジェクトの検討等について協議・検討する。
- ・各「プロジェクトチーム」は、戦略に位置づけられたシンボル・プロジェクトの進行管理を担う。プロジェクトの事業内容の企画・提案や関係機関との調整、情報発信、事業成果の検証などにもあたる。
- ・「たんばユースチーム」は、戦略、プロジェクトの推進に資するアイデアの提供や事業への参画を行う。「プラットフォーム TAMBA」では、ユースチームの活動・提案の事業化を推進する。

地域創生戦略目標設定の考え方 (P2 関係)

No	項目	目標値設定の考え方	データの出典
1	滞在人口	コロナ前 2019(R1)年度と同水準	REASAS 地域経済分析システム 年間日中 (14時) の滞在人口 (15歳以上~80歳未満)
2	Co2 排出量	2010 (H22) 年~2019 (R 元) 年までの削減率維持で算出	自治体排出量カルテ (環境省: 令和 4 年)
3	観光入込数	コロナ前 2019(R1)年度(最高値)に 2014 (H26) 年~2018 (H30) の平均増加率を乗じて算出	兵庫県観光客動態調査 (令和 3 年速報)
4	移住者数	コロナ前 3 年 (2016 (H28) 年度~2019 (R1) 年度) の前年比移住者平均増加数の維持で算出	丹波篠山市、丹波市の移住者調べ (令和 3 年)
5	事業所(者)数	2007 (H19) 年~2016 (H28) 年の年間開設事業所数平均維持で算出	平成 28 年経済センサス-活動調査結果
6	農林水産業産出額	減少傾向にはあるものの、令和元年に移転してきた大規模畜産経営法人での家畜頭数増加見込みを反映し微増と判断。	第 70 次農林水産統計年報 (令和 4 年) 令和 2 年度兵庫県林業統計書 漁業法第 90 条に基づく資源管理の状況等の報告
7	これからも住み続けたいと思う人の割合	2017 (H29) 年~2021 (R3) 年の過去 5 年間の最高値以上	令和 4 年度ひょうごの豊かさ指標県民意識調査
8	住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	2017 (H29) 年~2021 (R3) 年の過去 5 年間の最高値以上	令和 4 年度ひょうごの豊かさ指標県民意識調査
9	ICT (情報通信技術) などにより、どこにいても便利に暮らせる社会になってきていると思う人の割合*	2017 (H29) 年~2021 (R3) 年の過去 5 年間の最高値以上	令和 4 年度ひょうごの豊かさ指標県民意識調査

※R4 から項目変更 (旧: 住んでいる地域は買い物や通院が便利だと思う人の割合)

(参考)
シンボル・プロジェクト目標設定シート

地域創生戦略終期

シンボル・プロジェクト終期

項番	目標	対応している戦略目標	目標設定の起点	区分	集計方法	2022 (R4) 年度末	2023 (R5) 年度末	2024 (R6) 年度末	2025 (R7) 年度末	2026 (R8) 年度末
①アクティブ・フォレスト・プロジェクト										
1	将来の里山づくり活動の担い手育成数(安全講習会参加者数)(人)	2, 6		目標	累計	260	290	320	350	380
			231人 (R3)	実績	累計	272				
2	里山づくり活動による地産地消の発電用バイオマス量(t)	2, 6		目標	年間	60	70	80	90	100
			0t/年 (R3)	実績	年間	45				
②持続可能なコミュニティ・プロジェクト		4, 7, 8	目標については、来年度以降事業を進めていく中で決定							
③まちの拠点創造プロジェクト		1, 2, 7	目標については、来年度以降事業を進めていく中で決定							
④たんばスマート農林業特区プロジェクト										
1	農業団体等によるドローン防除面積 (ha)	6		目標	累計	100	200	400	500	600
			0ha (R3)	実績	累計	130				
2	複数集落でシェアリングシステムを実施した組織数(団体)	6		目標	累計	2	4	6	7	8
			2団体 (R3)	実績	累計	2				
⑤たんばフードバレー・プロジェクト										
1	開発商品数(件)	1, 3, 6		目標	累計	6	8	10	12	14
			4件 (R3)	実績	累計	8				
⑥食文化ツーリズム・プロジェクト										
1	食文化ツアーの開発数(件) (体験メニュー等の単体コンテンツを含む)	1, 3, 6		目標	累計	1	3	4	5	6
			0件 (R3)	実績	累計	0				
⑦たんば恐竜 (DMO) 構想推進プロジェクト										
1	恐竜サポーター登録者数(人)	1, 3		目標	累計	400	800	1,200	1,600	2,000
			0人 (R3)	実績	累計					
2	フィールドミュージアム関連施設への来場者数(人)	1, 3		目標	年間	150,000	150,000	160,000	180,000	185,000
			123,000人 (R3)	実績	年間					
⑧シリ丹バレー構想プロジェクト										
1	協議会参加企業数(社・団体)	1, 4, 5		目標	累計	100	180	250	300	350
			20社・団体 (R3)	実績	累計	110				
2	副業人材マッチング数(社)	1, 4, 5		目標	累計	3	6	8	10	12
			0社 (R3)	実績	累計	0				
3	経済センサス活動調査における新設事業所数(社)	1, 4, 5		目標	累計	440	455	470	485	500
			352社 (H28)	実績	累計					
4	コワーキングスペース及びシェアオフィス数(箇所)	1, 4, 5		目標	累計	9	12	15	18	21
			6箇所 (R3)	実績	累計	9				
⑨集落文化発掘・体験プロジェクト		7, 8	目標については、来年度以降事業を進めていく中で決定							
⑩たんばユース躍動プロジェクト										
1	自然体験講座の参加人数(人)	7, 8		目標	累計	10	30	50	70	90
			0人 (R3)	実績	累計	15				
⑪たんばスタイル(たんば暮らし)・プロジェクト										
1	丹波地域移住者数(人) (移住相談窓口を経由した数)	1, 4, 5, 7		目標	年間	395	420	445	470	495
			369人 (R3)	実績	年間					
2	移住相談者数(人)	1, 4, 5, 7		目標	年間	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000
			1,500人 (R3)	実績	年間					
⑫スマート・コミュニティ・プロジェクト										
1	地域集落へのスマート技術導入を検討する研究テーマ数(件)	7, 9		目標	累計	5	8	11	14	17
			0件 (R3)	実績	累計	6				
2	スマート技術の新規事業化数(件)	7, 9		目標	累計	0	2	4	6	8
			0件 (R3)	実績	累計	0				